

第6-5表 建築物における景観配慮の例（註1）

建築物の意匠は、以下を参考にして周囲の景観と調和するものを選択することが望ましい。

住宅	屋根等	<ul style="list-style-type: none"> ・勾配屋根（切妻、寄棟、入母屋）で、適当な軒の出を有する。 ・屋根勾配を4～5寸程度とする。 ・和瓦葺もしくは金属板等の一文字葺とする。 ・彩度・明度の低い黒、灰色、濃茶系色等の色彩とする。（註2） 	<p>切妻 寄棟 入母屋</p> <p>屋根型式</p>
	外壁等	<ul style="list-style-type: none"> ・和風建築の様式を継承した構造、形態、意匠とする。 ・外壁、建具等は木材等の自然素材か、それに近いものを用いる。 ・各層ごとに軒、庇を付ける。 ・広大な単一面とならないよう壁面を分節する。 ・彩度・明度の低い灰色、明度の低い白色、濃茶系色、暗い黄土色等の色彩とする。（自然素材を用いたものはこの限りではない）（註2） 	<p>屋根勾配</p> <p>景観に配慮されたまちなみ （東松島市）</p>
	敷地	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内に郷土種で植栽を施す。 ・敷地外周に生垣（郷土種）や木塀を設置する。 	
住宅以外	屋根等	<ul style="list-style-type: none"> ・勾配屋根（切妻、寄棟、入母屋）で、適当な軒の出を有する。 ・屋根勾配を4～5寸程度とする。 ・和瓦葺もしくは金属板等の一文字葺とする。 ・広大な単一面とならないように分節とする。 ・彩度・明度の低い黒、灰色、濃茶系色等の色彩とする。（註2） 	
	外壁等	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面を広大な単一面とならないように分節する。 ・各層ごとに軒、庇を付ける。 ・外壁・建具等は木材等の自然素材か、それに近いものを用いる。 ・屋外設備の位置は、主要な観賞の場から見えないよう配置を工夫する。 ・彩度・明度の低い灰色、明度の低い白色、濃茶系色、暗い黄土色等の色彩とする。（自然素材を用いたものはこの限りではない）（註2） 	
	敷地	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な観賞の場から建物の規模が小さく見えるよう配置や向きを工夫する。 ・敷地内に郷土種で植栽を施す。 ・敷地外周に生垣（郷土種）や木塀を設置する。 	

註1：歴史的又は文化的事由によって社会通念上認められているもの、その他やむを得ず上記によらないものは個別に協議する。

註2：色彩は参考資料3「色彩についての考え方」で提示している。